

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	昭和薬科大学
設置者名	学校法人昭和薬科大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門 科目	合計		
薬学部	薬学科	夜・通信			38.0	38.0	19	
		夜・通信						
		夜・通信						
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページ 情報公開 実務家教員一覧及び担当科目等 https://www.shoyaku.ac.jp/about/public/pdf/jitsumuka.pdf 別途、学生専用ホームページにも掲載あり
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	昭和薬科大学
設置者名	学校法人昭和薬科大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大学ホームページ上に掲載 https://www.shoyaku.ac.jp/about/public/pdf/yakuin.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	東京医療生活協同組合 新渡戸記念中野総合 病院薬剤科長	令和5年5月 11日から 令和8年5月 10日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	星薬科大学 名誉教授	令和5年5月 11日から 令和8年5月 10日	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	昭和薬科大学
設置者名	学校法人昭和薬科大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>次年度のシラバス作成に向けては、まず次年度の各科目責任者について12月の教務委員会で発案し、教授総会で決定する。その科目責任者が科目担当者を決定する。</p> <p>その後、科目責任者が2月～3月初旬までに学務システムを用いてシラバスを作成し、3月末までに1つの科目につき、教務委員会委員が複数名で記載内容を全て確認し、完成したシラバスを新年度開始時に学務システムに掲載し、公表している。同時に本学ホームページ上でも公表している。</p> <p>シラバスには、科目毎に、課程表年度、履修年度、科目責任者、非常勤講師を含む全ての講義担当者、科目名および科目略称、単位数、履修年次、薬学教育モデル・コアカリキュラムの該当する項目、授業概要と一般目標(GIO)、到達目標、授業形式、教科書、参考書、準備学習等(予習)、事後学習等(復習)、成績評価方法、学生へのメッセージを記載している。</p> <p>また、各回の講義について、担当教員、項目、授業計画と到達目標、SBOコードが明示され、これらは各回の講義科目担当者が作成している。学生へのメッセージの項目には、質問等の連絡方法が示しており、学生の講義時間外学習(予習、復習)に対して必要な情報を提示している。本学のシラバスには、薬学モデル・コアカリキュラム内のSBOが全て漏れなく記載されている。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>大学ホームページ シラバス</p> <p>https://gakumu.shoyaku.ac.jp/syllabus/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

シラバスの各科目記述欄に成績評価方法が記載され、講義、演習、実習、実技等の出席は、成績評価に使用していない。これらのことは学生に周知している。

本学の単位認定は、次のように行われている。講義、演習、実習、実技等に昭和薬科大学学部履修及び試験規程第 26 条第 2 号に則り、3 分の 2 以上出席した学生に対し、試験又はレポートの成績により学期または学年末に評価が与えられ、成績判定は極めて公正かつ厳密に行っている。

また、到達目標に達しなかった場合には、再試験を 1 回受験することで判定する(定期試験で 15 点未満となった科目の再試験の受験資格は認められていない)。2 学期以上にわたる講義は年度末に評価される。既修得単位科目も、再受講後に定期試験を受験して、その成績が前回を上回った場合は、それを最終成績としている。

さらに学生が、他の大学や短期大学において履修した授業科目の単位については、60 単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

3. 成績評価において、GPA 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

平成30年度より1～3年次学生を対象にGPA制度を導入している。

本学のGPA制度とは、各授業科目(実習含む)の成績を5段階で評価し、各成績評価段階に4.0～0.0の評点を付与して、学年ごとに1単位当たりの平均値を算出している

修得単位数という「量」の学修成果に加え、成績評価に基づく学修の「質」を総合的に評価できる。学生自身が総合的な学力を把握できるようになり、教員によるきめ細やかな学習指導につなげている。また、GPAの値は、進級基準の一部にも適用している。

点数	Grade	Point	評価内容
90～100点	S	4	きわめて優れた成績を表します。
80～89点	A	3	優れた成績を表します。
70～79点	B	2	十分と認められる成績を表します。
60～69点	C	1	合格ではあるが、十分ではない成績を表します。本学がめざす学修の到達レベルではありません。
～59点	D	0	合格と認められる基準に達していないことを表します。
欠席等		0	

GPAスコアは、各科目の(ポイント×単位数)の合計÷総単位数で表します。

<GPA算出方法>

$$\text{当該年度GPA} = \frac{4 \times \frac{\text{GradeS}}{\text{取得単位数}} + 3 \times \frac{\text{GradeA}}{\text{取得単位数}} + 2 \times \frac{\text{GradeB}}{\text{取得単位数}} + 1 \times \frac{\text{GradeC}}{\text{取得単位数}}}{\text{当該年度履修科目の合計単位数 (未修得科目の単位数含む)}}$$

また、この制度の導入に伴い、半期終了ごとに学年別に成績ヒストグラムを作成している。個人成績とともに開示し、学生個々に対してアドバイザー教員による面談を実施している。学生は自分の成績が全体のどの位置にいるかを把握することが出来る。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

昭和薬科大学学生便覧(学修ガイド)に掲載し、全学生に配布
大学ホームページ 情報公開 学修ガイド
https://www.shoyaku.ac.jp/about/public/pdf/gakusyuu_guide.pdf

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

以下に挙げたものは、本学の理念である「薬を通して人類に貢献」を具体化した人物像です。この様な人材育成のために編成されている本学の教育課程を修めた人に学士（薬学）の学位を授与します。

1. 医療人として豊かな人間性と高い倫理観及び強い使命感を有し、責任を持って行動する人
2. 社会の様々な場面で応用可能な、コミュニケーション及びプレゼンテーションの能力を有した人
3. 医療を始め幅広い分野における専門的知識を有し、社会でその知識を生かせる人
4. 科学的根拠に基づく問題発見、問題提起及び問題解決の能力を有し、問題解決によって得られた成果を社会に還元できる人
5. 生涯にわたり使命感を持って継続的な成長を自らに課し、次世代を育て、指導的な立場で社会に貢献する人
6. チーム医療に積極的に参画し、薬剤師に求められる知識・行動能力を有した人

昭和薬科大学学則に定められた単位認定を受け、学位規程に基づき、所定の手続きを経て、学位が授与される。

学士課程修了の判定基準については、卒業要件として以下の通り設定され、学生便覧に記載し、周知している。

学士課程修了時の総単位数

◎平成 27 (2015) 年度以降入学生

- | | |
|----------------|----------------------|
| I. 教養系教育系 | 必修 25.5 単位、必修選択 9 単位 |
| II. 英語教育系 | 必修 15 単位 |
| III. 化学系薬学教育系 | 必修 24 単位 |
| IV. 物理系薬学教育系 | 必修 11.5 単位 |
| V. 生物系薬学教育系 | 必修 13 単位 |
| VI. 衛生系薬学教育系 | 必修 7 単位 |
| VII. 薬理系薬学教育系 | 必修 12 単位 |
| VIII. 薬剤系薬学教育系 | 必修 11 単位 |
| IX. 臨床系薬学教育系 | 必修 36 単位 (総合コース) |
| | 必修 44 単位 (臨床コース) |
| | 必修 43 単位 (情報コース) |
| X. 総合薬学教育系 | 必修 31 単位 (総合コース) |
| | 必修 23 単位 (臨床コース) |
| | 必修 24 単位 (情報コース) |

上記の卒業判定基準に従い、教務委員会で資料を作成し、1～2 月開催の教授会で厳正に判定している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

大学ホームページ 3 つの方針

https://www.shoyaku.ac.jp/admission/graduate_policy/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	昭和薬科大学
設置者名	学校法人昭和薬科大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.shoyaku.ac.jp/about/public/pdf/R4_taisyaku.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.shoyaku.ac.jp/about/public/pdf/R4_zigyousyusi.pdf
財産目録	https://www.shoyaku.ac.jp/about/public/pdf/R4_zaisan.pdf
事業報告書	https://www.shoyaku.ac.jp/about/public/pdf/R4_zigyohoukoku.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.shoyaku.ac.jp/about/public/pdf/R4_kansa.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:令和5年度事業計画 対象年度:2023(令和5)年度)
公表方法:学内向けホームページに掲載
中長期計画(名称:学校法人昭和薬科大学 中期計画(2020~2024年度) 対象年度:2020(令和2)~2024(令和6)年度)
公表方法:学内向けホームページ、広報誌。進捗状況については事業報告書と共に学外向けホームページに掲載。

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:公表方法:大学ホームページ 情報公開 昭和薬科大学教育・研究年報 https://www.shoyaku.ac.jp/about/public/pdf/kenkyu_nenpou.pdf
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:大学ホームページ 自己点検・評価 https://www.shoyaku.ac.jp/about/accredited/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 薬学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.shoyaku.ac.jp/education/faculty/program/ ）
（概要） 本大学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、広く知識を授け、人格の陶冶に努め、深く薬学に関する学理と技術とを教授研究して、社会有為の薬剤師及び薬学教育者を育成することを目的とし、薬学の発展、文化の興隆、人類の福祉に寄与することを使命とする。（昭和薬科大学学則 第 1 章 第 1 条）
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ 3 つの方針 https://www.shoyaku.ac.jp/admission/graduate_policy/ ）
（概要） 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 以下に挙げたものは、本学の理念である「薬を通して人類に貢献」を具体化した人物像です。この様な人材育成のために編成されている本学の教育課程を修めた人に学士（薬学）の学位を授与します。 <ol style="list-style-type: none">1. 医療人として豊かな人間性と高い倫理観及び強い使命感を有し、責任を持って行動する人2. 社会の様々な場面で応用可能な、コミュニケーション及びプレゼンテーションの能力を有した人3. 医療を始め幅広い分野における専門的知識を有し、社会でその知識を活かせる人4. 科学的根拠に基づく問題発見、問題提起及び問題解決の能力を有し、問題解決によって得られた成果を社会に還元できる人5. 生涯にわたり使命感を持って継続的な成長を自らに課し、次世代を育て、指導的な立場で社会に貢献する人6. チーム医療に積極的に参画し、薬剤師に求められる知識・行動能力を有した人
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ 3 つの方針 https://www.shoyaku.ac.jp/admission/graduate_policy/ ）
（概要） 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） 本学では、薬学教育モデル・コアカリキュラムを基本としつつ、本学の理念「薬を通して人類に貢献」を具現化した人材を社会に送り出すために、以下の方針でカリキュラムを策定し、学修を求めます。 <ol style="list-style-type: none">1. 薬学で学ぶべき専門的学習に向けた基礎的知識の修得に加え、学びの意義について考え、人間として偏らない知識を持ち、真理探究のための学びの構えを修得します。

2. バランスのとれた英語教育カリキュラムを通して、グローバル化に対応できるように実用的な英語力を強化します。
3. 薬学を構成する様々な分野における専門的知識を身につけ、それらを活用できるような実力を養います。
4. 医療を担う薬の専門家としての高い実践能力を育成し、薬剤師として必要な倫理観や使命感を醸成し、真の医療人として行動できるよう、知識、技能、態度を修得します。
5. 科学的な根拠に基づく問題発見能力ならびに問題解決能力を修得します。
6. 生涯自己研鑽を行い、次世代を育成する態度を醸成します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法： 大学ホームページ 3つの方針
https://www.shoyaku.ac.jp/admission/graduate_policy/ ）

（概要）

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学が望む学生は、6年制薬学教育に対応できる基礎学力を有し、薬学を学ぶ強い意志があり、薬剤師に求められるコミュニケーション能力の資質と豊かな人間性を有する人物であり、以下いずれかの資質や意欲を有する人です。

将来薬剤師として

1. 医療を始め幅広い分野で社会に貢献する情熱を有する人
2. 新しい薬を創製する創薬分野で活躍する意欲と創造力、向上心を有する人
3. 人の健康や薬の適正使用に関心を持ち、その関連分野での活躍を望む人

なお、薬学の学修は、高等学校で学ぶ理科（化学・生物・物理）、数学、英語を基礎に成り立っています。そのため、前述の本学が望む学生像を前提としつつ、入学選抜では多様な入試方式により当該基礎科目の学力評価を重視するとともに、志願理由書をはじめとする出願書類等の活用により学校生活で修得してきた主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度を多面的・総合的に評価します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ホームページ 情報公開 教員組織、各教員の学位・業績
<https://www.shoyaku.ac.jp/research/laboratory/#cat1>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					人
—	—	26人	13人	23人	12人	人	76人
—	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		111人					111人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： 大学ホームページ 情報公開 教員組織、各教員の学位・業績等 https://www.shoyaku.ac.jp/research/teacher 公表方法：公表方法：					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
薬学部	240人	250人	104%	1,440人	1,503人	104%	人	人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	240人	250人	104%	1,440人	1,503人	104%	人	人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
薬学部	233人 (100%)	0人 (%)	194人 (83%)	39人 (17%)
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	233人 (100%)	0人 (0%)	194人 (83%)	39人 (17%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<p>次年度のシラバス作成に向けては、まず次年度の各科目責任者について 12 月の教務委員会で発案し、教授総会で決定する。その科目責任者が科目担当者を決定する。</p> <p>その後、科目責任者が 2 月～3 月初旬までに学務システムを用いてシラバスを作成し、3 月末までに 1 つの科目につき、教務委員会委員が複数名で記載内容を全て確認し、完成したシラバスを新年度開始時に学務システムに掲載し、公表している。同時に本学ホームページ上でも公表している。</p> <p>シラバスには、科目毎に、課程表年度、履修年度、科目責任者、非常勤講師を含む全ての講義担当者、科目名および科目略称、単位数、履修年次、薬学教育モデル・コアカリキュラムの該当する項目、授業概要と一般目標（GIO）、到達目標、授業形式、教科書、参考書、準備学習等（予習）、事後学習等（復習）、成績評価方法、学生へのメッセージを記載している。</p> <p>また、各回の講義について、担当教員、項目、授業計画と到達目標、SBO コードが明示され、これらは各回の講義科目担当者が作成している。学生へのメッセージの項目には、質問等の連絡方法が示しており、学生の講義時間外学習（予習、復習）に対して必要な情報を提示している。本学のシラバスには、薬学モデル・コアカリキュラム内の SBO が全て漏れなく記載されている。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
<p>昭和薬科大学学則に定められた単位認定を受け、学位規程に基づき、所定の手続きを経て、学位が授与される。</p> <p>学士課程修了の判定基準については、卒業要件として以下の通り設定され、学生便覧に記載し、周知している。</p> <p>学士課程修了時の総単位数 ◎平成 27（2015）年度以降入学生</p>

I. 教養系教育系	必修 25.5 単位、必修選択 9 単位
II. 英語教育系	必修 15 単位
III. 化学系薬学教育系	必修 24 単位
IV. 物理系薬学教育系	必修 11.5 単位
V. 生物系薬学教育系	必修 13 単位
VI. 衛生系薬学教育系	必修 7 単位
VII. 薬理系薬学教育系	必修 12 単位
VIII. 薬剤系薬学教育系	必修 11 単位
IX. 臨床系薬学教育系	必修 36 単位 (総合コース)
	必修 44 単位 (臨床コース)
	必修 43 単位 (情報コース)
	必修 23 単位 (臨床コース)
X. 総合薬学教育系	必修 31 単位 (総合コース)
	必修 23 単位 (臨床コース)
	必修 24 単位 (情報コース)

上記の卒業判定基準に従い、教務委員会で資料を作成し、1 月開催の教授会で厳正に判定している。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
薬	薬	195 単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位

GPAの活用 状況(任意記載 事項)	公表方法： 平成 30 年度より 1～3 年次学生を対象に GPA 制度を導入している。
	<p>本学の GPA 制度とは、各授業科目（実習含む）の成績を 5 段階で評価し、各成績評価段階に 4.0～0.0 の評点を付与して、学年ごとに 1 単位当たりの平均値を算出している。</p> <p>修得単位数という「量」の学修成果に加え、成績評価に基づく学修の「質」を総合的に評価できる。学生自身が履修状況をより客観的に把握できるようになり、教員によるきめ細やかな学習指導につなげている。また、GPA の値は、進級基準の一部にも適用している。</p>

点数	Grade	Point	評価内容
90～100点	S	4	きわめて優れた成績を表します。
80～89点	A	3	優れた成績を表します。
70～79点	B	2	十分と認められる成績を表します。
60～69点	C	1	合格ではあるが、十分ではない成績を表します。本学がめざす学修の到達レベルではありません。
～59点	D	0	合格と認められる基準に達していないことを表します。
欠席等		0	

GPAスコアは、各科目の（ポイント×単位数）の合計 ÷ 総単位数で表します。

<GPA算出方法>

$$\text{当該年度GPA} = \frac{4 \times \text{GradeS取得単位数} + 3 \times \text{GradeA取得単位数} + 2 \times \text{GradeB取得単位数} + 1 \times \text{GradeC取得単位数}}{\text{当該年度履修科目の合計単位数（未修得科目の単位数含む）}}$$

学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法：
----------------------------	-------

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページ 施設一覧

<https://www.shoyaku.ac.jp/about/facilities/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
薬学部	薬学科 1年	1,380,000円	350,000円	600,000円	施設設備費 600,000円
	薬学科 2-3年	1,380,000円	0円	600,000円	施設設備費 600,000円
	薬学科 4年	1,380,000円	0円	640,000円	施設設備費 600,000円 実験実習料 40,000円
	薬学科 5-6年	1,380,000円	0円	610,000円	施設設備費 600,000円 実験実習料 10,000円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) ○学習室を設置し、自主学習のための環境を支援 ○学修支援室を設置し、低学年での入学前教育やリメディアル教育、高学年でのC B T対策や国家試験対策、全学年を通じて大学での学習法の相談・指導や単位修得を後押しする補講などを通して、広く学生を支援。 ○ラーニング・サポート・ステーション (L S S) には、担当教員が常駐し、学生個々の悩みにキメ細かく対応 ○特待生制度を設け、当該学年の授業料の半額を免除 (各学年上位2名) し、学修意欲向上の推進 ○大学独自の奨学金制度を設け、品行方正・学力優秀にも関わらず、経済的事由により学修困難な学生に奨学金を貸与。また、日本学生支援機構およびその他奨学金の事務手続き・相談窓口を随時受付
b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要) ○学生との個別相談 ○企業や病院、薬局などの人事担当者、各方面の専門家を学内に招いて、講演会やセミナー、就職ガイダンスなどを開催 (就職活動のバックアップや低学年からのキャリア形成の支援) ○企業や病院、薬局などが参加する合同企業説明会の開催 ○キャリアサポート、就職支援、各種求人情報等を発信するポータルサイトの運営 ○色々な業界からOB/OGを学内に招いて、学生との交流会を開催
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要) ○保健室に看護師が待機し、万一の応急処置や一時休養対応。状況に応じて、医療機関や救急病院等の受診を支援 ○ここほっとルームを設置し、充実した学生生活を送るための情報を提供、日ごろの悩みや問題解決をサポート

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：昭和薬科大学教育・研究年報 https://www.shoyaku.ac.jp/about/public/pdf/kenkyu_nenpou.pdf

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F113310103091
学校名	昭和薬科大学
設置者名	学校法人昭和薬科大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		73人	70人	68人
内 訳	第Ⅰ区分	40人	41人	
	第Ⅱ区分	19人	16人	
	第Ⅲ区分	14人	13人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				71人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	—		
計	—		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	15人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	15人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。